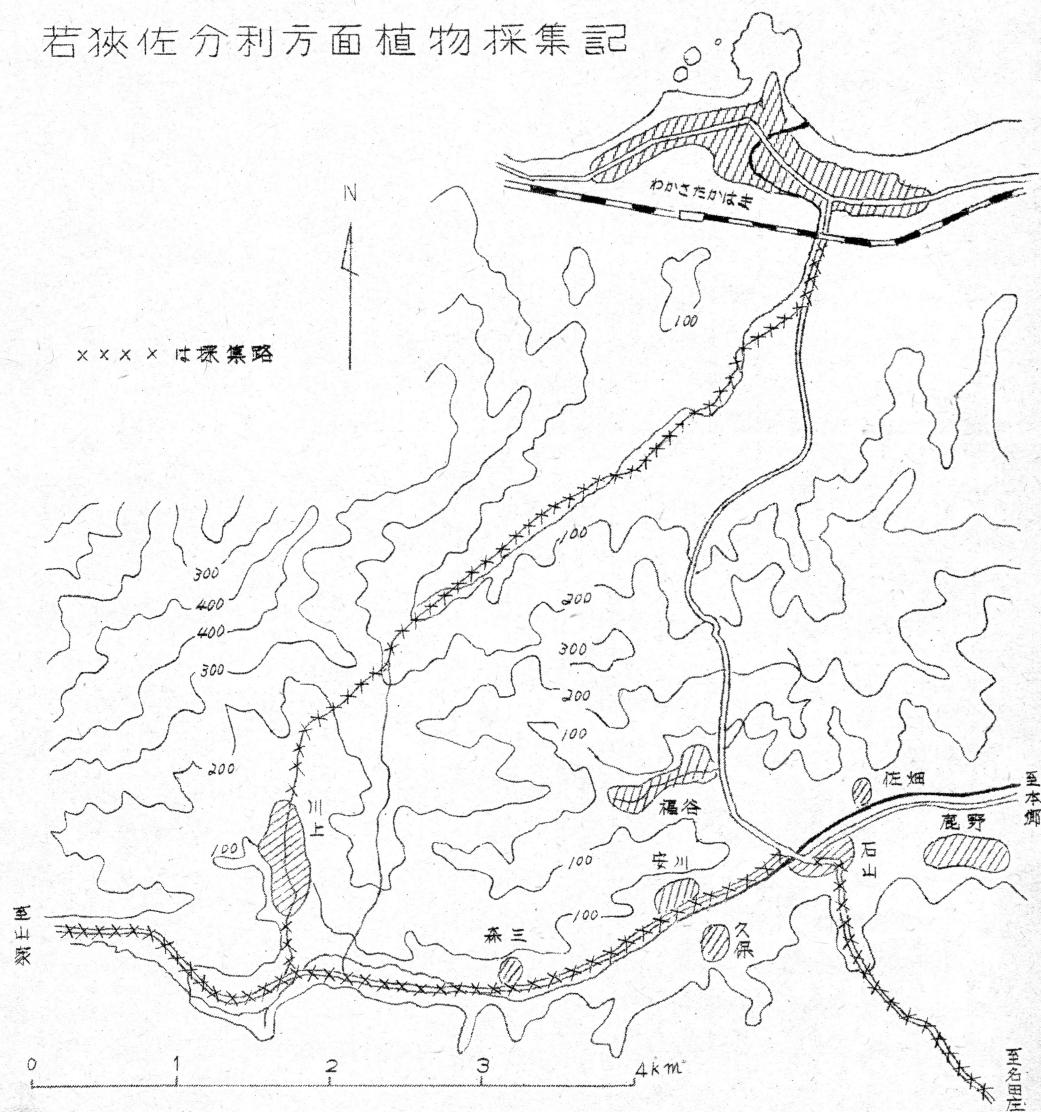


(採)

リンドウ, オオイワガシミ, サワアジサイ, サンカクズル, ヒメマシヤスシ, ホウノキ, シシガシラ, スノキ, ネジキ, ソヨゴ, ヒサカキ, ミヤマガマズミ, ネムノキ, ハウチワカエデ, キンキマメサクラ, マユミ, コヨウアケビ, ママコナ, ノナ, ムラサキシキブ, コハウチワカエデ, ウワミズサクラ, ムシカリ, コマユミ, ノササケ, イヌシテ, イタヤカエデ, ムラサキマエミ, ナナカマド, ハンショウズル, スミレサイシン, ウリハタカエデ, ニカイチゴ, キツリフネ, ツリフネソウ, ハナヒリノキ, スミ, ワラジロガシ.

(寒蟬義一記)

若狭佐分利方面植物採集記



昭和30年9月24～25日の連休を利用して、堀、寒蝉の両名は大飯町佐分利方面に採集行を試みたのでその概況を報告する。

午前10時半高浜駅に下車、之より子生部落を経て川上部落へ向う。子生部落は田の中の道でユウガギク、ノコンギク、ヨメナ、アキノキリンソウ、ヒカンバナ等が咲き乱れて美しい。刈り取られた田の中にキクモ、ホシクサ、ヒナガマツリ、ウリカワ、イヌヒケ、ヒメキカシクサ、ヒメミソハギ、又メリクサ、ヒメテンツキを探集した。路傍の森林はヤフニッケイ、タスノキ、シロタモ、シイノキが主で、この外にハゼノキ(半ば紅葉)、ハクヨウ、アベマキ、アラカシ、モチノキ、シキミ、ヒワ、ヤブムラサキ、ハリギリ、カラスサンショウ、アオキ、ナンテン等が見られた。特にナンテンが自生しているのは珍しい。これらの樹木の下草としてはベニシダ、イタチシダ、ホシダ、ホラシノフ、タチシノフ、イノテ、シヤガ、ウスグマブハギ、ニガイチコがあつた。

子生部落で昼食をとり川に沿って上流へ向う。この辺に見られたものは次の如くである。マツカゼソウ、ウリハタカエデ、フモトシダ、ヒメワラビ、クロモジ、クラマコケ、タツナミソウ、オオバギボウシ、ヤブツバキ、タチシノフ、チホミササ、アキチヨウジ、クロモジ、ハイシキミ、タジマタムラソウ、エゴノキ、ポントクタデ、ウタイスカグラ、イヌカヤ、イヌシテ、ヤフラシダ、イヌコウジュ、シロヨメナ、ヒュウガミズキ、ヒメシャブシ、ウリカエデ、ソヨゴ、ヤマウルシ、シロタモ、ヒワ、ニガキ、

若狭の山を歩くといふところで一昨年の颶風の被害したあとを目撃するが、この方面的被害も甚だしく、そのために川上部落への道を見失ってしまった。午後2時半から4時半まで、昼の短い秋の日差気にしながら山中をうろつきまわり、滝の上へ出て進退に窮したり、流木の山に足をすべらせたりして一時は顔色を失ってしまった。幸いにもようやく来た道を発見し、逆もどりする内に川上部落へ帰る人に逢い、地獄で佛に合つた心持でこの人の後に従つた。川上部落までの間に採集したものは次の如くである。

イヌシテ、アカシテ、ウラジロノキ、ベニシダ、イタチシダ、クマワラビ、フモトシダ、サイトウガマ、ワジユロ(自生?逸出?)、ケンホナシ、アフラギリ、ウラジロ、ヤブツバキ、チャセンシダ、イタチシダ、ウラボシノコギリシダ、ジマケツイバラ、イヌホウズキ、ヤブタバコ、ムカゴイラクサ、カツラ、クサイチゴ、シラキ、ツルボ、ママカモジクサ、ナワシロクミ、キササケ、キンラン、コウヤボウキ、キンキマメサクラ、ヒュウガミズキ(多し)、カヤ、クロモジミソハギ、ソヨゴ、ママツツジ、サイフリボク、アセビ、イヌツバ、コバノガマズキ、ハナイカタ、コバノトネリコ、ナナカマドの一種、カシヒ、ウラジロガシ、ウリカエデ、コシオガマ、カナビキソウ、カセンソウ、センブリ、ママモモ、イカリソウ、ミズナラ、ワカサハマギク、ヒヨウタンボク、タンコウバイ、コマツナギ、エゴノキ、ホウノキ、ウリハタカエデ、アズキナシ、シラカワボウフウ、ナンキンナナカマド、リヨウブ、ミツバアケビ、シヤシヤンボ、アマズル、キクバヤマボクチ、コバノミツバツツジ、コマユミ、ヤブムラサキ、イモノキ、クマノ

ミズキ, クマシテ, ワラジロガシ, アサタ, ウタイスカクラ, ハナイカタ, ママコウバ
シ, カマツカ, マルバマンサク, ハイネズ, ソヨゴ, メギ, レンケツツジ, クワクサ,
クロバナヒキオコシ,

尚この道は蛇紋岩の露出が多く、その露頭につくものをあけると次の如くである。
アカマツ, コバノトネリコ, タニウツギ, オウバギボウシ, コナラ, タチツボスミレ,
ヒエウガミスキ, シラカシ, ヘクソカズラ, ツッポクサ, イワカサ, コバノトネリコ,
ツクバネツツギ, オカルカマ, センボンマリ,

川上部落で区長さんの好意により公民館に泊り、25日は佐分利川流域を調査することにした。川上部落附近で採集したものは次の如くである。

モウソウタケ(栽培ではあるが非常に多い), オモト, ノキシノブ, タヌノキ, シイノ
キ, マツツバキ, トウササクサ, タンコウバイ, ウスギョウラク, イワカラミ, ウリカ
エテ, ヒサカキ, アカシテ, ケンボナシ, オオモミジ, アケボノソウ, アカメカシワ,
アセビ, バライチゴ, リョウス, ウツギ, フモトシダ, イヌシタ, ツノハシバミ, アオ
キ, イタチシタ, イワガネソウ, ツリフネソウ, コバノガマズミ, ウタイスカクラ, ヤ
マハゼ, ミツバアケビ, ホドイモ, クロモジ, クロバナヒキオコシ, ハセ, ケヤキ, コ
ハウチワカエテ, タチシノブ, キクバヤマボクチ, ベニシタ, コバノミツバツツジ, シ
ロタモ, フエイチゴ, オニカナフラビ, クマワラビ, ケンホナシ, アラカシ, ヒテンカ
ズラ, ミヤマキズ, サンショウ, フジユロ, チヤ, ナンテン,
ワジユロ, チヤ, ナンテンが自生状態にあるのは珍しい。

川上の上流約2kmの川がニ又になつているところで田井谷へ入る。この方面の森林は
シイ, シラカシ, マツツバキ, コナラ, ケンホナシ, シラキ, モウソウタケが主木で、こ
の外にジャケツイバラ, カゴノキ, ニホンキ, アカシテ, カマツカ, エゴノキ, リョウス,
ハナイカタ, シキミ, アラカシ, コバンノキ, チヤ, ヒサカキ, ヤマウルシ, アオキ, イ
ヌカマ, 寒があり、その下草としてはシシガシラ, ジャノヒケ, ヤマジノホトトギス, フ
ジカンソウ, ワラジロ, オオキジノオシタ, ホソバトウアシバ, オニカナフラビ, フユイ
チゴ, フモトシタ, タニイヌフラビ, ハタケホホズキ, ヒメフラビ, コウマホウキ, オオ
バノハチジョウシタ, ノコギリシタ, ヤマイヌフラビ, ケジゲジシタ, オオヒメフラビ,
ウワバミソウ, ヤマジノホトトギス, アセビ等がある。

やがて川添の道から県境の吉和木峠への山道にかかる。この道では次のようなものが採
集された。

カナクギノキ, イソノキ, ホツツジ, ヒメヤシマフシ, オオイワカカミ, ワラジロノキ,
ママボウシ, サカキ, ヒサカキ, コバノミツバツツジ, アカシテ, コシアフラ, ソヨゴ,
イモノキ, アクシバ, ヤマウルシ, アセビ, ネジキ, ナツハゼ, シラキ, コバノトネリ
コ, シイ, ヤマツツジ, ハリギリ, スノキ, アオハダ, サワフタギ, ウリハタカエテ,
タンコンバイ, イヌシテ, コハウチワカエテ, アカシテ, クマシテ, コミネカエテ, ツ

ルリンドウ, ミゾシタ, モミジハクマ, ハクウンホク, サイフリオク, キンリョウソク, ヤマソテツ, クマイチゴ, ニガイチゴ, アリノトウクサ,

峰より引返し、今度は下流の方へ向う。川上部落に近い新鞍神社の社叢は比較的原始林の姿を保つてるので、この社叢を調査した。ここで見られたものは次の如くである。

タスノキ, ヤブツバキ, ケヤキ, シラカシ, オオバシハナジョウシタ, アカメカシワ, シロタモ, アオキ, ニカキ, シキミ, イヌカヤ, ヤスソテツ, オニカナワラビ, ウリノキ, ヤブラン, シマカ, チホミササ, カンクビソウ, ムラサキニカナ, スミレサイシン, フモトシタ, ミヤマカタバミ, ミヤマミズ, ミカエリソウ, コウゾ, ヤマアイ, アサクラザンショウ, ニフトコ, ヒノキ(裁), ハネミイヌエンジコ, ムラサキシキブ, フジキ, アスナロ(裁), ヤマツツジ, ヤマハセ, クサギ, フユイチゴ, ヤスハキ,

佐分利川本流に添つた道は堤防上にあり度化に乏しいので先を急いだが、三森部落対岸の山腹にシシランらしいものを遠望したので、川を涉りそぞ探集に行つた。果してシシランであつたが、その外にヒトツバコバノイシカタマ, カミカモシタ, チヤセンシタ, イワヒメワラビ, コジキイチゴ, リンボク, 等も探集した。

石上部落へ引返して、バスの待時間を真名田方面への道を調査した。ここで見られたものは次の如くである。

シケチシタ, イワヒメワラビ, ウコギ, ミヤマミズ, トウササクサ, ササクサ, タス, シラカシ, コバンノキ, イボタノキ, コンスイ, リンホク, ノリウツギ, ツユクサ, オオキジノオシタ, イヌツバ, カラムシ, アカメカシワ, ウツギ, タニウツギ, ジマケツイバラ, クロモジ, アワスキ, シロタモ, アセビ, ヤブニツケイ, ムラサキシキブ, エゴノキ, ミズキ, ウラジロ, リヨウフ, シラキ, タンコウバイ, ネムノキ, オニカナワラビ, ピナンカズラ, イモノキ, コハウチワカエデ, ウリハタカエデ, スルベ, ガマズミ, アカシベ, ソヨゴ, ヒサカキ, ベニシタ, アラカシ,

（寒蟬義一記）

大野郡西谷村蠅帽子峠の植物採集記

昭和30年8月大野郡西谷村下秋生等豊川ダム建設にともなつて水没する地域の植物調査を行つた。その際蠅帽子川の上流蠅帽子峠に登り峠の植物を見る機会を得たので次に報告します。

西谷村下秋生から蠅帽子川にそつてトラック道路が戦時建設されたが其の後修理をしないために橋は落ち雑草は茂つて相当荒れているが平坦な道で登るには苦労はない。峠の東